

第2回推進協議会以降に開催された「当事者検討チーム」及び「地域自立支援協議会」からの意見等の要約について

区分	No.	施策	No.	主な取り組み(事業)	意見・要望	備考
施策の方向性2 情報アクセシビリティの向上及び障害者の意思疎通の充実						
	1	情報アクセシビリティの向上	9	障害者のICTの活用の推進	60代以上の視覚障害の方は、携帯電話を使用している方や、スマートフォンを持っていてもアプリは使っていない方が多いと聞く。区がスマートフォン講習会を開催することで、よりスマートフォンの利用が身近になると考えている。東京都が講習会を開催しているが、そもそも会場まで行くことが難しく、また、新しいものに対して抵抗感があるので、気軽に触れられるような場所があると思う。	当事者検討チーム
施策の方向性4 防災・安全・バリアフリーのまちづくり						
	1	防災・防犯対策の推進	40	避難行動要支援者に対する支援の推進	個別支援計画の作成＝助けてもらえるという気持ちになるため、当事者が安心できるように個別支援計画を運用してほしい。	自立支援協議会
			44	二次避難所(福祉避難所)の運営体制の推進	二次避難所(福祉避難所)は障害のある方、家族にとって拠り所になる場所だと考えている。しかし、現時点で二次避難所(福祉避難所)の情報はあまり周知されていないと思う。広く区民に周知するとともに、必要な体制整備を進めるためにも、協議会等を通じて当事者の意見を聞くなどして、意見を取り入れてもらえると思う。	自立支援協議会
			45	災害時における安否確認体制の確保	区で今年から、各施設との安否確認に関する協定を結んだと思うが、安否確認の体制ができたとしても、その情報をどこにどのように伝え、どう活かされるのか、具体的な内容を早急に示されなければ活用できないのではないかと考えている。	当事者検討チーム
	3	公共施設等のバリアフリー化の充実	52	バリアフリー化助成の実施	診療所や薬局等の助成は広がっているが、個人商店も含め街全体をバリアフリー化していけば、障害者の外出先が増えると思う。	自立支援協議会
施策の方向性5 相談支援の充実						
	1	相談支援体制の充実	58	様々な相談に対応する包摂的な支援の仕組みづくり	公的なサービスだけでは解決できない問題と一緒に考えてくれる地域福祉コーディネーターが区役所内に配置されることは素晴らしい。連携していくために関係機関への周知や今後の動きについて説明が必要ではないか。	自立支援協議会
施策の方向性6 障害者や家族を支える多様なサービス提供体制の整備						
	1	在宅生活を支えるサービスの充実	68	ショートステイ(短期入所)の整備	重度知的障害がある児童を対象とした短期入所がなく、どのご家族も苦勞している。重度知的障害児向けの短期入所の整備を希望する。	自立支援協議会
	2	居住環境の整備	73	知的障害者グループホームの整備	区内グループホームの整備を待てずに、区外のグループホームの利用を選ばなければならないケースが多くある。是非、整備をすすめてもらいたい。	自立支援協議会
	3	日中活動の場の整備	76	学校卒業後の夕方支援の検討	学齢期に放課後等デイサービスを利用していた障害者が、卒業後に障害福祉サービスを利用するようになり、事業終了後の時間の支援を必要としている。障害者の家族が就労を継続するためには必要な支援である。	自立支援協議会

区分	No.	施策	No.	主な取り組み(事業)	意見・要望	備考
	4	障害者の高齢化への対応	77	介護保険サービスへの移行時の支援	障害福祉課の身体障害・知的障害と、保健予防課の精神障害では移行時の対応に差が出ている。精神障害がある方への柔軟なサービス移行をお願いしたい。	自立支援協議会
			78	共生型のサービスの推進	「共生型のサービスの推進」について、いまだに胃ろうやカテーテルを使用している方の短期入所の受け入れ先がないため、すぐには難しいとは思いますが、区として利用ができるように後押ししていただきたい。	当事者検討チーム
					介護保険サービスと障害福祉サービスを併用しているケースが年々増えている。重度になるほど、介護保険サービスよりも障害福祉サービスの比重が大きくなり、利用も多くなるが、ケアマネジャーで障害福祉サービスに詳しい方が少なく、一般相談支援事業で関わっているケースも増加している。障害福祉サービス併用により一般相談支援事業に関わらざるを得ないケースがあるため、加算などを検討いただければ、もう少しケアマネジャーとの手厚い連携が可能になると思う。	当事者検討チーム
	5	リハビリテーションの実施	79	中途障害者への機能訓練	「リハビリテーションの実施」について、中途障害の方だけでなく、生活介護を受けておらず自宅にいて、機能訓練を受けたいが外来に行くには目標が足りずに利用できない方もいる。(仮称)北上野二丁目福祉施設の中で、中途障害に限らず、機能訓練を受けられるようなサービスを考えてもらいたい。	当事者検討チーム
施策の方向性7 福祉人材の確保・育成・定着支援						
	1	サービスを担う人材の確保・資質向上			ヘルパー養成研修等の受講費助成は良いと思う。就職フェアやセミナーだけでなく、現在働く人への処遇改善など、区独自の策は検討できないか。P87の文章にもあるが「深刻な人材不足」だと思う。	自立支援協議会
	2	ヘルパーの養成				
	3	手話通訳者の養成				
施策の方向性11 就労の場と機会の充実						
	5	福祉的就労をしている障害者への支援	126	就労継続支援事業所、地域活動支援センターへの支援	現在福祉的就労をしている方が増加している。就労意欲の安定には、地域での繋がりを確保し孤立化を防ぎ、日中活動の場や支援が安定して提供されている必要がある。各事業所の発信力では弱いと感じている。より広く事業を知ってもらい、活用してもらうことが安定的な就労に繋がると考えているので、区公式ホームページ等で広報を支援してもらえると良い。	自立支援協議会
			127	移動支援の充実の検討	他区では移動支援の利用について、就労継続支援B型の通所や通所帰りの余暇活動などにも対応して利用できる場所がある。利用者のニーズに合わせて、柔軟な利用ができるようにしてほしい。また、ヘルパー確保・定着に向けた取り組みを充実してほしい。	自立支援協議会